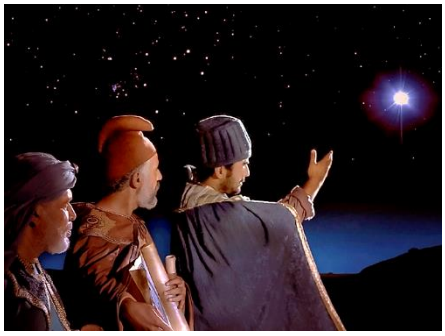
今月のみことば　２０２４年１２月

ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。私たちはその方の星が昇るのを見たので、礼拝するために来ました。（マタイの福音書2章2節）

王としてお生まれになったイエス・キリスト

今月の聖書の言葉は、今から2千年前、パレスチナの東方に住んでいた博士たちが、当時ユダヤの地を治めていたヘロデ王の元に来て語った言葉です。ここから分かることは、この博士たちはユダヤ人の王の誕生を、星を調べることによってその誕生がいつなのかを心待ちにしながら研究していたということです。天文学や占星術に精通していた彼らは、星の配置や動き、異常な天体現象には特別な出来事の兆し（しるし）があると考えていました。天文学の知識と聖書の預言、星の不思議な動きにより、ユダヤ人の王の誕生を予感したのです。しかし、とても不思議な光景です。博士とあろう方々が、これから生まれてくる赤ちゃんこそユダヤ人の王様だと信じており、その赤ちゃんに礼拝しようと遠くからやってきたからです。礼拝とはまさに王に、もっと深い意味で言えば神に対してなされる行為です。しかも、この時のユダヤ人の王はヘロデでした。そのヘロデ自身に、このことを聞きに行くということは、ヘロデからすれば面白くないことでした。なぜなら自分こそ王様の立場であり、王としての強い自負心があったからです。残念なことに、博士たちからすれば、本物の王こそ、これから生まれてくるお方だと言うのです。



ところで、この博士たちを導いた星とはどんな星なのでしょうか。ある研究によると、この星は獅子座の中でも最も明るい星で、レグルスと呼ばれています。古代から特別な意味を持つ星として知られていたようで、博士たちはこの星を研究していたのかもしれません。そして興味深いことに、このレグルスは獅子座の心臓部に位置し、“小さな王”という意味があり、まさに本物の王が誕生してくるにふさわしい星だったのです。聖書には、キリスト（救い主）は獅子（ユダ族）から生まれてくることが預言されており、民族としての家系図を見ても、目に見える形としても、まさにこの預言が成就したのでした。

ヘロデはこのことを博士たちから詳しく聞いて、その赤ちゃんが誕生する町とその周辺に生まれた2歳以下の男の子を全員殺させました。しかし、不思議な導きにより、その赤ちゃんは殺されずに守られたのです。そのお方こそ、イエス・キリストです。聖書には、イエス・キリストを「王の王、主の主」とも書かれており、単なる王ではなく、すべてを治める真の王として、この地上に来てくださったのです。その王であるお方が、私たちの罪の身代わりとなって、死んでくださいました。本来、王のために臣下がいのちをささげるのに、このお方は私たちの罪のために、王自ら死んでくださるというご計画を成し遂げてくださいました。王と言っていますが、神ご自身です。神ご自身が私たちのために死んでくださったのです。人間的に考えるのであれば、ここで終わりですが、聖書は続きを記しています。このお方は死んで3日目によみがえられたのです。永遠のいのちがあることを示してくださったのです。このお方の死と復活にまさるあわれみと恵みはありません。このお方にのみ希望があるのです。

さて、東方の博士たちには、真の王の到来、救い主の誕生という素晴らしいニュースが届けられました。しかし、ヘロデ王にとっては酷いニュースが届けられました。さて、現代に生きる私たちにも投げかけられています。私たちにとっては、このイエス・キリストの誕生は喜びのニュースでしょうか。それとも聞くに堪えないでたらめだと思うニュースでしょうか。少なくとも、毎年祝われているクリスマスの背景を考えると、歴史的事実としてイエス・キリストの誕生があったことは否定できません。

このクリスマスの時期に、真の王の誕生、神の招きについて考えてみませんか。（M）